



# 全難聴便り

発行:事務局 〒162-0066  
東京都新宿区市谷台町 14-5 MSビル市ヶ谷台1F  
編集:全難聴事務局  
電話:03(3225)5600  
FAX:03(3354)0046  
URL:<http://www.zennancho.or.jp>  
E-Mail:[zennacho@zennancho.or.jp](mailto:zennacho@zennancho.or.jp)

## ↑ シーズ・ニーズマッチング交流会開催 (3月6日~7日)

厚生労働省が進める「障害者自立支援機器等開発促進事業(シーズ・ニーズマッチング強化促進事業)」交流会が3月6日~7日東京有明TOCで開催されました。

障害者のニーズと開発者のシーズ(種)が結び合って実るようという意図があります。

会場では9つの団体それぞれのブースに60を超す開発者、開発企業が展示を行いました。

全難聴ブースには、アドバンスドメディア、



シャムロック、プラスヴォイス、MASCといった音声認識関連アプリ開発企業、ソナール、コクレア、東京信友などの情報保障機器関連企業が最新の情報を展示しました。

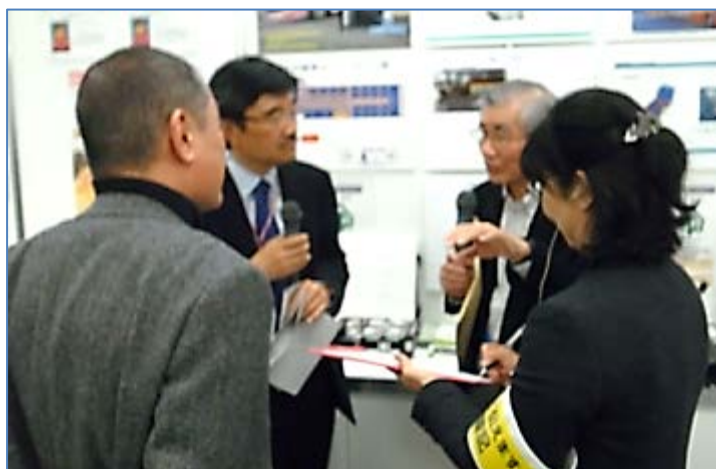
主催者であるテクノイド協会のホームページには出展社情報が掲載されるところです。

←左の写真は、音声認識技術から点字への展開事例です。音声で話した言葉を、文字変換して、ブライルセンス(点字表示機)に流すという試みを盲ろう者協会の庵さんに体験して頂いているところです。

### ※~川井理事の報告~

今回このような大掛かりな展示会を厚労省が催したのは、過去の一般公開が思ったような反応がなかったことへの危機感の現れだと思います。当事者として、この機会を活かすような意見表明が必要だと考えます。全難聴ブースには、永年応援してきた企業、技術者が顔を揃えていただきました。彼らの努力と技術力を実るよう活動していきたいと思っています。

(理事、情報文化部副部長 川井節夫)



厚労省廣瀬専門官を囲んで、新谷理事長、川井理事が磁気ループを通じて意見交換をしています。要約筆記者は磁気ループ受信器を耳にはめています。

## 👉 障害福祉サービスの在り方等に関する作業チームへのヒアリング対応 (3月12日)

障害福祉サービスの在り方等に関する論点整理のためのワーキンググループ「手話通訳等を行う者の派遣その他の聴覚、言語機能、音声機能その他の障害のため意思疎通を図ることに支障がある障害者等に対する支援の在り方に関する論点整理のための作業チーム」(第2回)という大変長い名前の会議が開催されました。

厚生労働省の障害保健福祉部が実施している障害者総合支援法の見直しについての会議の一環で、複数のワーキンググループがあり、その下に個別課題についての作業チームがあります。

前回、ワーキンググループでのヒアリングに対応しましたが、今回この作業チームでも当事者団体ヒアリングに盲人会連合、全日ろう連、盲ろう者協会、失語症の会とともに全難聴にヒアリング対応の依頼がありました。新谷理事長が、事前意見書提出とともに意見を述べました。

意見書は全難聴ホームページ内「中央対策」に掲載してあります。厚生労働省サイトにも掲載されています。( <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000077414.html> )

ヒアリング事項は、「意思疎通支援事業」「同人材育成」「同支援機器」「合理的配慮」「教育放送分野との関係」それぞれについてでした。ワーキンググループヒアリングでの意見と重複しますが、意見要旨を全難聴の継続的要望として以下にまとめます。

支援は全国共通の仕組みにするべき

全国的行事へは国事業として対応すべき

聴覚障害者への支援は同行支援などの個別支援とは区別した仕組みが必要

支援対象は障害者手帳所持の有無に関わらず障害者基本法に基づく障害定義によるべき

共生社会は福祉サービス、合理的配慮、環境整備の適切な組み合わせによるもの

その後、3月27日に同作業チーム(第3回)が開催され、第2回での各団体の発言要旨について議論され、ワーキンググループへ提出されることとなります。

## 👉 第21回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 香川(うどん)県情報 (11月21日~23日)

全難聴理事、大会実行委員長 湯浅 はるみ

まだ雪の残る地域もあるかと思いますが、ようやく春らしくなってきました。

これから各地で桜の開花…?各協会の皆さまますますお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

早いもので「第21回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in うどん県」もあと8か月となりました。候補地として指名させていただいた時に早速、高松サポートを会場に決め、少しずつ準備を重ねてまいりました。



### 分科会は5つ決定。

○第1分科会は地元香川が担当します。テーマは「中途失聴・難聴者が病院に行けるようになるためには」1年半前の夏に四国中国、近畿ブロックの各協会にアンケート調査の協力をいただき、回収結果を基に香川県内へ耳マーク普及してきたことを報告するものです。座長は補聴医療部長根間洋治氏にお願いしています。

○第2分科会は隣県徳島に協力していただき、劇団「テアータ80」による「幸子」上演鑑賞。難聴女性の自立がテーマです。座長・パネラー

は全難聴理事と女性部長を予定。

- 第3分科会は難聴児（者）親の会が担当。テーマは仮題「インクルーシブ教育とICT」文部科学省から講師派遣の予定で、パネラーは常務理事工藤文紀氏の予定。
- 第4分科会は青年部が担当で「働きやすい職場を作るコミュニケーション」座長は青年部長の吉野弘規氏。
- 第5分科会は情報文化部。テーマは未定ですが、進歩著しい情報機器に関する人気の分科会なので、決まり次第ご案内します。

懇親会は、300人は入れる大型テント内で瀬戸内海の夜景が見られ、讃岐の秋祭りをイメージした楽しい内容にしたいと企画を立てています。雨と風対策をしています。念のため暖かい服装でお越しください。

講演は地元の落語家の桂こけ枝の「ほのぼの福祉噺」。アハハと笑ってお楽しみください。

観光は2つのコースを計画しました。一日コースは「二十四の瞳」が有名、日本一のオリーブの生産地小豆島の観光です。半日コースは名勝栗林公園の散策とうどん作り体験コース。

香川に来てたくさんの良い思い出ができますように、実行委員会一同がんばって準備を進めていきます。会場は高松駅からすぐ目の前にあり、分科会から懇親会、講演まで一つの会場なので、移動のロスがなく便利です。

**是非、友達を誘って、おいでませ高松へ。**

**うどん県大会サイト近日公開！！**

**(事務局)**



スマイルステーション高松

## 📌 理事及び専門部長の動き（3/1～3/31）

- 3月3日 共用品推進機構理事会（小川）
- 3月4日 第二回 AD 体系的技術標準化委員（共用品機構）（小川）
- 3月5日 第3回補聴器条件者の第二種免許取得に関する勉強会（小川）
- 3月6日 アクセシビリティ協議会第2回作業部会（小川）
- 3月6日～7日 シーズ・ニーズマッチング交流会（新谷、川井、小川）
- 3月8日 第4回全国統一要約筆記試験委員会（新谷、宇田川）
- 3月10日 SC35/WG6 分科会開催（字幕ガイドラインの概要の審議）（新谷）
- 3月12日 厚労省 WG 作業チームヒアリング（新谷）
- 3月16日 第5回「障害者の高齢化に関する課題検討委員会」（大石）
- 3月16日 シーズ・ニーズマッチング強化検討会議（川井）
- 3月16日 全難聴 26 年度決算 27 年度予算打ち合わせ会議（新谷、佐野）
- 3月18日 厚労省補装具評価検討会（佐野）
- 3月24日 JDF 差別解消委員会（新谷）
- 3月25日 緊急通報アクセシビリティ WP 第25回（小川）
- 3月25日（オリパラ）アクセシビリティ協会 WG 第25回（新谷）
- 3月26日 日身連第2回評議員会（新谷）
- 3月26日 第124回 JDF 幹事会（新谷）
- 3月27日 名難聴創立40周年記念祝賀会（川場、佐野）  
主催側として（高木、荒川）
- 3月27日 TA-net「より良い観劇支援システム構築のために  
今できること」（新谷）

## 📌 事務局報告

- 3月6日～7日 シーズ・ニーズマッチング交流会
- 3月12日 厚労省WG作業チームヒアリング
- 3月14～18日 第3回国連防災世界会議（情報文化部対応）
- 3月16日 全難聴 26 年度決算 27 年度予算打ち合わせ会議
- 3月27日 厚労省作業チーム傍聴
- 3月31日 全難聴だより No. 82 発行

《予定》

- 4月4日 ACITA 協議会、人工内耳懇談会
- 4月5日 補聴医療対策部会議、補聴器関連懇談会
- 4月5日 香川大会実行委員会
- 4月10日 事務局会議
- 4月12日 中央本部要約筆記 WG 第2回会議
- 4月14日 中央本部第3次提言WG
- 4月14日 聴覚障害者制度改革推進中央本部拡大会議
- 4月27日 四団体連絡会
- 4月30日 全難聴だより No. 83 発行

TA-net「より良い観劇支援システム構築のために今できること」  
(3/27)

ろう者劇団俳優の廣川麻子さん率いるシアターアクセシビリティネットワーク（TA-net）が観劇支援システムに関するシンポジウムを開催しました。

全日ろう連小出委員長、東京芸術劇場橋爪係長とともに新谷理事長がシンポジストとして登壇しました。

自身の観劇経験を交え、現在の情報保障に関する状況や、歌舞伎座などとのやりとりなど、具体的な事例を交えて発言しました。

会場の森下スタジオは「小劇場」そのままの趣で参加者と登壇者の近い関係が新鮮でした。

